

# 花豆 栽培

## 山桜の里 戸赤



松崎健太郎さん

25・9・17 第 1 回  
集荷講習会 12 人参加

『花豆パイ』の花豆は  
自分たちが作っていると  
自慢してください。」



収穫が終わった花豆の畑(9月27日撮影)

【松崎健太郎さん(株式会社おくや代表取締役)からメッセージ】  
平成 24 年 7 月から花豆パイの販売を初めて丸 1 年、バラと箱入りあわせて販売数 33,623 個。これはヒット商品といえます。  
戸赤の村づくり実行委員会に特許権使用料的な意味で幾分かお支払いしたいと思っています。  
戸赤で買った花豆が、職人の手でスイーツとなり 1 年売れたことは、正直ほっとしております。やはり加工品にしてその地域に根付いていくのが一番の地域産業ではないかと考えます。皆様も、堂々と「花豆パイ」の花豆は自分たちが作っていると自慢してください。

あのすばらしい戸赤の景色や文化を引き継いでゆくのには、今回のような事業が役立つことを真剣に考えていきたいと思っています。

畑が空いている時期を活用して栽培者の育成や、山桜学校施設の協力も得ながら、改めてその可能性を皆さんと話し合っていきたいと思っています。

名物のため  
あんこの原料  
B級品ももっと  
出してください

B級品があんになります。割れ・しわ・色変化・小さいのも買い取ります。

選別を面倒がらずに、名物を作るためと思って、出していただけで助かります。



「ふくしまっ子」体験事業(8.10 荒海スポーツ少年団 21 人)



コツをつかむと難なく作業を進めてしまう子供たち

素材の確保と  
講師の応援があれば  
なお力強い

戸赤の魅力を引き出すために大きな役割を果たしている木地工房の課題は、素材の確保と講師を増やすということです。ご協力をお願いできる木地愛好家のご連絡をお待ちしております。

【木地の学習No.35】表 5 は「会津回国年度」として両所をまとめたものであり、その出典も付した。(表 5)

年	蛭谷		君ヶ畑	
	主管	出典	主管	出典
享和3 (1803)			金龍寺	小椋雄志家文書
文政10 (1827)	筒井神主	寛政11 寄進帳	金龍寺	35号簿冊
			大皇大明神	36号簿冊
			大皇大明神	37号簿冊
弘化2 (1845)			金龍寺	39号簿冊
嘉永2 (1849)	筒井神主	文政13 氏子駆帳		
安政4 (1857)	筒井公文所	安政4 氏子駆帳		
明治13 (1880)	(筒井神主)	小椋雄志家文書		
明治15 (1882)			金龍寺	戸石小屋組頭文書
明治26 (1893)	(筒井神主)	明治26 寄進帳		『木地屋の移住史I』橋本鉄男

(会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) (つづく)

# 森林整備収 益金が精算

赤土共有

えなかつたため、シイタケ・マイタケの原木生産などで森林を活用する森林経営計画の取り組みに着手できた赤土共有の事業は、第一年目の実績がまとまり、収益金が森林組合から森林所有者に支払われ、この計画により5年間の契約で人工林の間伐と搬出、広葉樹の利活用が図られます。また今後40年間の山の経営・整備・管理目標も掲げられ、補助制度活用の前提となっています。



整備前の広葉樹

1 カマドイ赤い花は名前の由来  
2 ふっくら焼いた花豆がその味まじり  
3 1箱も購入し1,500円1箱1000円/1500円/1500円

花豆もそのひとつ。皆さん、花豆を知っていますか？ 鮮やかな赤い花をつける「ハズナ」の種子で、標高500m以上の冷涼な地で育つ古くから大豆として食されているものです。花豆は、ほくほく旨み強い花豆をまるごと2〜3粒、パイに包みこんだものが船にも運ばれた豆が使われ、昔は「ハズナ」の豆の細性がパイの中です。さつととした歯ざわりと甘さゆえめつと強めて食べると一層おいしく感じます。花豆はじかみの深い地域の方々は好んで手土産に求める人も多い逸品です。ただ、花豆の収穫は2〜3月と、寒い時期です。花豆は、ほくほく旨み強い花豆をまるごと2〜3粒、パイに包みこんだものが船にも運ばれた豆が使われ、昔は「ハズナ」の豆の細性がパイの中です。さつととした歯ざわりと甘さゆえめつと強めて食べると一層おいしく感じます。花豆はじかみの深い地域の方々は好んで手土産に求める人も多い逸品です。ただ、花豆の収穫は2〜3月と、寒い時期です。

お忘れなきよう！  
定例産地にお越しの際は、ぜひ産直が限られ花豆は回数制限ながらの運送で育てているため、ちやんが日々の暮らしのなか、昔い戸赤の花豆はじかみ、はめ求める人も多い逸品です。ただ、花豆の収穫は2〜3月と、寒い時期です。



放線線セシウムが基準値を超過したため、シイタケ・マイタケの原木生産などで森林を活用する森林経営計画の取り組みに着手できた赤土共有の事業は、第一年目の実績がまとまり、収益金が森林組合から森林所有者に支払われ、この計画により5年間の契約で人工林の間伐と搬出、広葉樹の利活用が図られます。また今後40年間の山の経営・整備・管理目標も掲げられ、補助制度活用の前提となっています。

「トースターで焼いて食べる」  
が私流。ハマります！

アズノ  
aizu no kitemasu info  
南会津下郷の花豆パイ

案内人 井岡友枝 さん  
まちの駅下郷 井岡友枝 さん  
まちの駅下郷 (下郷町下郷) 南会津郡下郷町赤土五丁目 5.3177 TEL: 0241-67-4433  
営業/9:00~17:30 1/1定休

下郷町戸赤地区は標高630mの山間にある24戸の小規模集落。溪谷の木道をへる渡り木地蔵が定住したと伝えられる村です。この村では10年ほど前から水車式木地工芸や炭焼き小屋を復活させ、また祖先が山林を守り、春の楽しみのために残した約100本もの山桜を名所にするなど、山里の暮らしそのものの魅力を発信しています。

道の駅しもごう  
下郷町南会津戸赤地区54-108  
TEL: 0241-67-3802  
営業日/8:00~18:00  
(4~11月/2~3月は17:00まで)  
定休日/12/31/1/1休

KAIBA 会津 道の駅  
本町 赤土共有  
下郷町赤土五丁目16-3  
TEL: 0241-68-2926  
営業日/8:30~17:00  
定休日/無休



まちの駅下郷  
井岡友枝さん



(ストーリー性のあるつづきのために[No6]・紅梅館前) 今、桜木姫の墓は大内より氷玉峠にかかる道端に、長旅の途次での悲しい死をあらわすかのようにただ一基ぽつんと立っている。この台地状の原を里人らは御側ヶ原と呼んでいたが今は畑地となった。昔は墓碑の傍らに桜の古木があったが今は枯れ、それに代わって若い桜の木が墓の左右に植えてある。また水抜の上手には桜木姫の衣装塚というのが残されており、今に人々の哀れさをさそう。姫の素性については不詳だが、一説では橘諸安の息女で源頼政の二男兼綱の妻であろうといわれている。(「会津の歴史伝説」とっておきの33話-小島一男著」(発行所歴史春秋出版株式会社) 出典) (続く)